

コープみらい

[CO-OP MIRAI CHIBA INFORMATION]

ちばインフォメーション

5/18
2020

編集 コープみらい 千葉県本部 参加とネットワーク推進部 TEL:043-301-6684 FAX:043-301-6685 ホームページ コープみらい で検索!

ちばインフォメーションの誌面で募集している催し物、講座のお申し込みの際にお預かりした個人情報は、お申し込みの受付、詳しい資料やご案内の送付、必要なご連絡のために使わせていただきます。



人と人がつながるコープの「産直」

12 つくる責任 つかう責任
産直
コープの里

コープみらいの産直の取り組みが始まったのは1970年代です。組合員の「生産者の顔が見える安全な農作物を安心して食べたい」という願いと、生産者の「安全な農作物を組合員に直接届けたい」という思いを実現するために「産直の5つの基本」を設けました。
現在は、産直の5つの基本に沿って、農産だけでなく、水産、畜産も「産直」として組合員にお届けしています。

コープの「産直」は「産地直送」「産地直結」の略語ではありません

産直の5つの基本

1 生産地、生産者、生産・流通方法が明確であること

「誰が、どこで、どうやって作ったのか」明確になっています。

例えば「産直若鶏」は、産地と農場を指定して、コープと生産者でエサや育成方法について毎年確認し、鶏肉の生産日ごとの製造記録についても確認し合っています。

2 記録・点検・検査による検証システムがあること

生産記録と産地点検を定期的に行い、産直商品の管理状況を確認しています。

例えば農産の産直産地へは、定期的にコープの職員が訪れ、生産者と一緒に栽培内容と農薬の使用記録や管理状況の確認を行っています。

3 持続可能な生産と、環境に配慮した事業を推進すること

子どもたちが大人になってもおいしい自然の恵みが食卓に届けられるように、豊かな環境を守り育てる取り組みを支援しています。

例えば「伊平屋島産味付け太もずく」は、環境を守るために売り上げ1点につき1円を「美ら島応援募金」に寄付しています。

4 生産地、生産者団体との自立・対等を基礎としたパートナーシップを確立すること

産地と年間を通した取り組みや将来へとつながる取り組みを進めています。ピンチのときは、お互い協力して困難を乗り越えます。

例えば、産地とコープの両方で年間計画を立て作付けする野菜の品目と引き取る量を取り決めた上で栽培し、価格も市場の価格にあまり左右されず、話し合っていて決めています。そして、組合員の皆さんに買って食べてもらうことで支えられています。このように、組合員、コープ、生産者の信頼により安定して農産物を生産できるため、将来に渡って持続的な農家経営が目指せるので若手生産者も育っています。

産直産地からのメッセージ

2019年度には大雨や台風により千葉県内の産地でも甚大な被害を受けました。「食べて応援」の取り組みでは、被害を受けた生産者を思う組合員の皆さんの気持ちが、想像を超える購入となりました。皆さんの利用が生産者の未来につながりました。コープみらいの職員も約700人がボランティアとして、台風被害で壊れたハウスなどの撤去作業を行いました。

復興の力に
食べて
応援!

ハウスの解体をする職員ボランティア

5 組合員と生産者との多面的な交流を推進すること

産地見学や学習会、体験企画などで組合員は産地の特徴や生産者のこだわり・思いを知り、産地は組合員の思いや願いを知ります。

例えば、「多古旬のお米クラブ」は、産直産地の協力で、田植えと稲刈りの体験交流を行っています。参加者はお米が食卓に届くまでに多くの人の手間や愛情がこもっていることを学びます。

多古旬の味産直センターの協力で田植えを開催

また、地域で行われている生産者との交流会や学習会を通して、生産者は組合員が何を求めているか知る機会となります。

2018年度みらいひろば成東での産地交流

「産直」の土台は組合員・コープ・産地の
“パートナーシップ”です。
これからも顔が見える関係を
大切にしていきましょう。

